



1. 園の保育目標

『 何事も、自分から進んでやる子ども 』の育成

子どもが自ら学び、伸びようとする力を大切に、「何事も、自ら進んでやる子」を育てる

- お友だちと仲良く遊ぶ子
- 生き生きと元気で丈夫な子
- 創造性の豊かな子
- 思いやりのある子
- 自分で考えて行動できる子
- 何にでも生き生きと興味を持つ子

2. 本年度、重点的に取り組むべき目標や計画

保育所保育指針が改訂・告示されたことを踏まえ、それに沿って平成 29 年度の目標を「遊びの質を考えるー遊びの環境に工夫を」とし、生活の充実を図る

3. 具体的目標・計画

① 保育の内容について

☆クラスの取り組み・目標

- ・ 0 歳児 一人ひとりの関わりを大切にしながら保育者との安心できる関係を築いて生活する中で、様々なことに興味を持ち好きな遊びを見つけよう
(周囲の大人との愛着関係、十分に養護の行き届いた環境のもとくつろいだ雰囲気の中で様々な欲求を満ちし、生命の保持及び安定を図る)
- ・ 1 歳児 個々の発達に合った一人ひとりの生活リズムを大切に、保育士と安定した関わりの中で、好きな遊びを見つけて楽しもう
(健康、安全など生活に必要な基本的な習慣や態度を養い、心身の健康の基礎を培う)
- ・ 2 歳児 保育士に見守られ友だちと一緒に様々な遊びや周りのことに好奇心を持ってやってみよう
(生活の中で、言葉への興味や関心を育て、話したり、聞いたり、相手の話を理解しようとするなど、言葉の豊かさを養う)
- ・ 3 歳児 基本的な生活習慣を知り色々な事に自ら挑戦しよう
色々な遊びに興味を持ち夢中になって遊ぼう
(いろいろな経験の中で感動できる感性を磨き、創造性の芽生えを培う)
- ・ 4 歳児 喜んで色々な活動に取り組み 自分から進んでやってみよう
色々な経験、あそびを通して相手の気持ちを知り、友だちのつながりを広げよう
(人とのかかわりの中で、相手に対する愛情と信頼感、そして人を大切にする思いやりの心を育てるとともに、自主、協調、協働の態度を養い、道徳性の芽生えを培う)
- ・ 5 歳児 発想豊かに遊びを展開していこう
様々なことに意欲的に取り組み、思いやりの心を持ち、達成感を味わおう
(生命、自然現象や社会の事象への興味や関心を育て、それらに対する豊かな心情や思考力の基礎を培う)

A → よくできた B → できた C → 一部改善が必要 D → 改善が必要

☆取り組み状況

* 乳児保育において特定の保育者との応答的な関わりをもつことで信頼関係、愛着関係を育てることを重点的に行うようにする	A
* 少人数担当制を行っている他の施設への乳児保育担当者の見学、勉強会への参加、研修会への参加を行い、本園の保育過程の見直しに繋げる	C
* 幼児保育において少人数に分かれての活動を取り入れる	B
* 職員が保育理念・保育方針の共通理解をする	B
* 保育の振り返りをしながら今後へ生かせるようにしていく	B
* 保育環境の整備・充実	C
* 給食職員と保育士等が連携して食育を推進する	B
* 小学校や地域社会との連携を行う	A
* 実習生の受入	A

☆達成及び取り組むべき課題

- ・子どもが安心感をもてるよう少人数に職員配置をしたため、一人ひとりの発達過程に応じた保育に近づけることができた。
- ・職員間の連携が難しいところを今後どのようにしていくかが課題である。
- ・保育過程の見直しについてはまだまだ十分とは言えず検討する必要がある。
- ・幼児保育においても一人ひとりとの関わりを持つことができる人員配置であった。
- ・保育において誰かが指示をし個々が動くというよりも、すべての職員が経験知を出し合って、皆で話し合い試行錯誤しながら保育することが保育の質の向上にもつながる。そこには意見を言える・聴ける職員の関係性が必要である。
- ・全職員園内研修会において具体的な保育事例に基づき検討会を行ったことで 園の保育理念 保育方針を共通理解することができ、これからの保育のあり方を確認することができた。
- ・乳児保育及び一時預かり保育環境の整備・充実では、パーティションを購入した。
- ・幼児保育では体力・筋力強化のため可動式鉄棒を購入した。
- ・玩具について、選定委員を中心に職員が子どもの発達に合った玩具を選び購入した。(役員からの寄付による)
- ・食育担当の保育士と栄養士が連携をとり、保育の中で取りあげたものを実際に献立にしたり、旬の食材、季節感のある献立を取り入れるようにしている。
- ・毎日の給食の食材を子どもたちに紹介し、食の楽しさや体づくりに大切であることを伝えている
- ・園の畑で栽培、取れた野菜を収穫しクラスでクッキングしたり、家庭に持ち帰ったり、給食に取り入れたりしている。
- ・保護者のアンケートで試食希望があったので、食育を家庭と連携する上で課題としたい。
- ・近隣の小学校、幼稚園、保育園とで合同研修会を行うことができた。
- ・地域の方に園の行事、避難訓練参加への声掛けを積極的に行っている。
- ・実習生の受入は、将来への人材育成との認識で積極的に行っている。

② 健康及び安全について

☆取り組み状況・目標

健康

* 園児の健康状態、発育及び発達状態の把握	A
* 感染症対策、職員の感染症への知識の共有	A

安全

* 園庭遊具、砂場の安全点検ならびに修繕	B
* 防犯カメラ、AED、防災機器の点検整備	C
* 防災用品の購入	A
* 避難訓練の充実	A

☆達成及び取り組むべき課題

- ・保護者からの健康チェック表、連絡ノートによる把握をしているが、未記入の場合があるため防災上の観点からも記入の徹底が課題である。
- ・登園時の視診による健康観察、保育中にも視診を行い具合の悪そうな場合は検温をしたり、注意深く様子を観察するように心がけている。
- ・毎月身長・体重を測定し、乳幼児保健票のグラフ記載は保護者が行き、園医への質問等子どもの発育について連携して見守っている。
- ・感染症の発生時の家庭への周知、予防対策への協力を速やかに行った。
- ・嘔吐物処理の方法、消毒薬の作り方の職員研修を行った。（消毒薬は毎日入替えている）
- ・アレルギー児への給食の対応について、保護者との詳細な連携が必要な場合の対応が不十分であった。
- ・毎日園内の遊具及び設備等の点検を職員が行い、不備がある場合は都度改善をしている。
- ・専門業者に依頼し、園内の遊具点検及び砂場の細菌検査を年一回行う。
- ・点検の結果、複合大型遊具のつり橋踏み板が疲労、亀裂があったので交換修理を行った。
- ・つり橋歩行部分、取付金具、踊り場床板の隙間解消、フェンス支柱の補強修理を行った。
- ・屋上フェンスの間隔は安全基準に対応しているが、より安全にするため補強工事を行った。
- ・防犯カメラを画像が鮮明な機種に取り替えた。
- ・防災用に携帯ソーラーパネル・蓄電池・照明器具を購入した。
- ・警察に依頼し、不審者への対応訓練を行った。自動ドア及び送迎通用門の施錠の徹底について改めて周知する必要がある。
- ・年間の避難訓練計画に基づき、全園児と職員が訓練に参加「自分の身は自分で守る」という意識が徐々に身についている。

③ 子育て支援について

☆取り組み状況・目標

* 保護者の気持ちを受け止め、保育園と保護者の相互理解を図る	C
* 地域や関係機関と連携して子育て支援をする	B

☆達成及び取り組むべき課題

- ・園での子どもの様子、保育内容を保護者に対して十分伝えきれていない。
- ・年間行事については、子どもたちに経験して欲しい活動を、負担にならないように組んでいるつもりだが、保護者への負担を考え、行事の見直しが必要である。
- ・保護者の状況、就労への配慮が十分とは言えないところがあった。
- ・家ではできない活動や経験ができるよう工夫した。

- できるだけ多くの職員が園内外で、特別支援研修会に参加できるようにした。
- 専門機関との連携（橋渡し）をどう進めていくかが課題である。
- 一時預かり事業ではできるだけ多くの子育て家庭の支援ができるようにした。

④ 組織運営について

☆取り組み状況・目標

* 職員への情報の取り扱い方針の周知	B
* 職員への就業規則の周知	A
* 職員の資質向上	C

☆達成及び取り組むべき課題

- 介護、育児休業規程、有期契約労働者の就業規則改正について、職員周知の機会にあわせて、個人情報取り扱い、守秘義務について改めて周知した。
- 職員ひとりひとりの倫理観、子どもの人権への配慮など、職務の責任と理解を、自己評価することにより再確認した。
- できるだけ保育の課題に即した研修に参加できるよう図った。
- 研修で得た知識や技能を全体で共有する機会がまだまだ足りないことが課題である。

《 全体を通しての自己評価 》

- 保育課程については十分に検討することができなかつたのが反省である。職員に新しい保育所保育指針とあわせて幼稚園教育要領も配布した。参考にしながら保育園の役割としての養護と教育、子どもの発達の連続性を考慮した養護から教育へのつながりを考えていきたい。
- 保育内容については、異年齢児との保育活動など一斉活動の良さも生かして、社会性を身につけるように促していきたい。
- 子どもの主体的な遊びができる環境を工夫することに力を入れたい。
- 保護者への園での子どもたちの様子について十分に伝わっていないとアンケートにもあった。発信のし方を工夫したい。
- 保健管理についてはおおむね徹底できている。引き続き保護者にも協力をお願いして感染症対策をしていきたい。
- 保護者アンケートに外部からの侵入に対しての不安の意見が多数あった。警察にも協力を得ながら不審者対策の充実、保護者にも協力していただき玄関施錠の徹底をしたい。
- 職員が特別支援について学ぶ機会（専門機関からの助言）をもち保育に生かすことができた。
- 専門機関へどのようにつなげていくか（橋渡し）が課題である。
- 一時保育事業では「子育て」の不安をかかえる家庭への援助の必要性が高まっている。できる範囲で職員の負担にならないようにしながら、保護者の「子育て」のストレスを軽くする受入をしている。
- 保護者のアンケートに職員の子どもへの声掛けが気になるとの意見があった。保育士等の自己評価を子どもの人権・人格の尊重を主眼に行い、職員一人ひとりが子どもとの関わりを再確認した。